

北信地域障がい福祉自立支援協議会 議事録

部会名

そだちネットワーク部会 第2回

開催日時

平成28年7月21日(木)

参加者所属機関名等

飯山養護学校・北信保健福祉事務所・中野市・飯山市・山ノ内町・木島平村・栄村・母子通園施設いちご学園・母子通園施設ゆきんこ園・児童養護施設飯山学園・ふっくら工房ふるさと・北信教育事務所・事務局(北信圏域総合相談支援センター)

本日のテーマ、課題等

- ①発達障がい支援フォーラムの振り返り ②重心・医ケアワーキンググループの報告
- ③飯山養護学校特別支援教育連携協議会の報告
- ④今年度の部会の進め方について

会議で話し合われた事

①発達障がい支援フォーラムの振り返り 7/9(土) <学び方は十人十色 ～子どもに寄り添う支援＝学んで楽しい～>を開催。自分と同じような学習障害の苦しみを抱えている子どもたちに寄り添う支援についてのお話。参加者はスタッフ含め約220名。アンケートやスタッフからの感想を聞く。

②重心・医ケアワーキングのグループ報告

第1回・第2回ワーキンググループの報告。第1回は、北信圏域における重心・医ケアのお子さんの課題の確認を実施。様々な課題がある中、今年度は医療的ショートステイ先の実現に向けて取り組んでゆく方向となる。第2回では、医療的ショートステイについての取り組み方法を検討した。まずは、病院に対し重心・医ケア児の実態・地域資源についてしっかりと伝えられる必要がある事から、実態調査をすることとなる。実態調査の詳細について引き続き検討してゆく。

③飯山養護学校特別支援教育連携協議会の報告 「“やって良かった、やってみたい” 取り組みを共有し、高校・社会を見据えた支援の充実をめざして」をテーマに6/3(土)に実施。中学・高校サテライト地区会を新設したり、「高等学校における特別支援教育の現状」をテーマにした講演会で学んだりした。

④今年度の部会の進め方

H28年度の部会の目的と3つの基本的柱の確認

「障がいのある」「障がい児」という表記方法、その言葉の持つ意味、それに伴う目的について深めていくため再度検討を繰り返しながら進めてきた。

<目的>

さまざまな障がいや困り感を持っている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくことを目的とする

<3つの基本的柱>

- ① **子どもの困り感**や特性に合わせた支援
- ② **家族**の気持ちに寄り添う支援(障がい受容プロセスの伴走者であること)
- ③ 関係機関のネットワーク**機能の充実**

<4つのWG>

・**子どもの支援** ・**親の支援** ・**関係期間のネットワーク** ・**重心・医ケアワーキング**

今後に向けて

それぞれのWG分かれ、今年度の取組内容、方向性を検討していく。